



四小だより

令和6年 11月 25日
府中市立府中第四小学校
校長 安原 一朗
No.9



みんなで創り、演じきった学芸会

～全員が元気いっぱい、感動しました～



校長 安原 一朗

11月16日(土)の学芸会には、多くの皆様にご参観をいただき、本当にありがとうございました。皆様からの温かい拍手が、子供たちにとって、とても大きな励みになりました。

仲よし学級の子供たちは、6年生を中心に、チームワークよく助け合って演じていました。それぞれの役割を大きな声で果たしていました。6年生の気持ちのこもった大人顔負けの熱演に感動しました。6年2組のお父さんが「仲よし、よかったね。涙が出たよ。」と私におっしゃってくださいました。

1・2年生は初めての学芸会で、緊張しながらも一生懸命に声を出していました。最後の歌の場面ではどの子も自信満々で楽しそうに歌っていました。「子供たちが可愛くって。」と涙を流している1年生のお母さんもいらっしゃいました。

3・4年生は、2回目の学芸会です。3年生は、舞台に出ている子もそでで歌っている子も楽しそうで、みんな生き生きとしていました。迫力のある歌声には驚きました。4年生は子供たち一人一人が体を大きく使って、大きな声で演じました。様々な国が登場して、テンポよく元気よく、子供たちは演じきりました。たくさんウケて、笑いをもらって、どの子も笑顔でした。

5・6年生にとっては最後の学芸会でした。5年生の「エルコスの祈り」も6年生の「リメンバー・ミー」も、小学生の学芸会のレベルを凌駕していました。(手前味噌ですが)両者とも低学年児童には難しいお話だったと思いますが、1・2年生の感想に、「5・6年の劇に感動したから、おうちの人に見てもらいたい。」とありました。たくさん場面転換がある中で、役になり切った豊かな表現力があったからこそと思います。台詞を喋っていないときの動きまでそれぞれが工夫し、一人一人が役になりきって役割を果たし、みんなで作り上げた素晴らしい劇でした。

教員は、どの学年も、その学年の子供たちにあった演目を選び、台本を書き、時にオーディションをして配役を決め、衣装や小道具・大道具も作り、練習時間に制約がある中、全員が参加したという喜びを感じられる劇の世界を創りあげていきました。教員たちの熱い思いに、並々ならぬ気概を感じました。すごかったです。感動されました。

今回の学芸会を通して、全力で取り組んで得られた達成感や充実感は、子供たちにとって大きな財産になったことと思います。子供たちの成長を感じた学芸会になりました。いろいろとご協力いただきました保護者の皆様、本当にありがとうございました。

野球オーストラリア代表チームと交流しました

11月5日(火)5・6時間目、WBSCプレミア12のために来日し、府中市で事前キャンプをしていた野球オーストラリア代表チームと交流しました。

5時間目は、オーストラリア国歌のBGMで、体育館への選手の方々の入場に始まり、校長挨拶・チーム代表挨拶・5年児童による代表挨拶・ハーモニーブリーズ演奏・校歌斉唱・運動会の歌斉唱・選手によるデモンストレーション・1年2年3年4年仲よし学級の代表児童とキャッチボールをしました。ハーモニーブリーズの演奏は選手の皆さんのりのりでジャズを楽しんでいたようにでした。校歌と運動会の歌斉唱は、最初その大音量の歌声にびっくりしていましたが、ニコニコで喜んでくださいました。6時間目は、校庭に出て、5・6年生とキャッチボール教室をしていただきました。選手との距離が近く、ファーストネームで呼び合う子もいました。とてもフレンドリーな雰囲気で良い交流ができました。

